

学位論文内容の要旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">亀口まか【論文博士】 (人間発達学専攻 平成15年3月単位修得退学)</p>	要 旨
論文題目	河田嗣郎の男女平等思想とジェンダー	<p>本論文は、明治末期から昭和初期にかけて活躍した経済学者・社会政策学者河田嗣郎（1883-1942）の生涯と著作、論文等を研究対象にして、当時の社会状況の変化と、それに対応して社会政策を提示して行った具体相を「性別」概念と男女平等思想に注目して読み解き、その歴史的意義を明らかにした論考である。なお主な資料としては、河田の著作目録に掲載されている文献（河田の著書・論文・記事）を用いているが、本論文では、1906（明治39）年から1942（昭和17）年までの36年間に及ぶ河田の著作活動を考察の対象に据えて検討している。</p> <p>第1章では、河田嗣郎に関する先行研究を詳細に検討し、特に本論の主題となる「性別の社会構築性」の知見に関する理論的潮流を概観して、研究枠組みを提示している。第2章では、明治末期から昭和戦前期に及ぶ生涯と河田が展開した著作活動を概観、整理し、その思想と行動の変遷を跡付けている。</p> <p>第3章では、河田の男女平等思想の論点として、家族制度と女性解放に関わる河田の視点を明らかにしている。第4章では、河田の男女平等思想のもう一つの論点として、性別の固定化を批判した教育論を考察し、河田の良妻賢母主義教育批判、公民教育に関する著作活動が、性別特性論を乗り越える試みであったことを明らかにしている。第5章では、河田の男女平等思想を貫く性別概念について、明治末期における河田と上杉慎吉との婦人問題をめぐる論争、大正後期における平塚らいてうによる河田への批判を検討することを通して、河田の性別概念の社会構築性を明らかにした。第6章では、河田が昭和戦前期以降に取り組んだ社会政策論の体系化における議論に注目して検討し、河田が社会政策論の文脈において女性労働問題の解決に関する論点を明らかにし、さらに「階級」概念のみではなく、「社会部類」概念について検討し、河田の社会政策論の特徴を分析している。</p> <p>本論の研究上の貢献は、河田の性別概念における社会構築性の発見、及びその社会政策への施行の具体相を明らかにした点にある。それは、今日の「ジェンダー」概念の嚆矢と位置づけられるものである。さらに「社会部類」概念もまた、「階級」概念のみではなく、人種、民族等の「エスニシティ」概念における規定作用を視野にいたし、稀有なものであったことを論じた点は、さらに奥深い理論化を導くものであり、本論の研究上の意義として高く評価できる。</p>
審査委員	(主査) 教授 舘 かおる	
	教授 小玉 亮子	
	准教授 斎藤 悦子	
	教授 杉田 孝夫	
	准教授 富士原 紀絵	